

ながはまの文化財

市内には、国や県、市が指定した文化財がキラ星のごとく誇り輝いています。このコーナーでは、数ある文化財の中から代表的なものをシリーズで紹介いたします。

市指定文化財
「下坂家文書697点」のうち
足利直義感状
指定日：平成8年9月1日指定

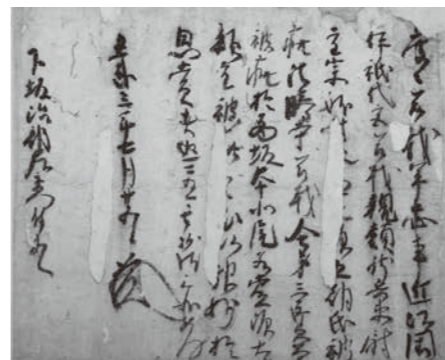
「下坂家文書」については、『広報ながはま』平成27年1月1日号で紹介したことがありますが、下坂氏館跡の公開に合わせて、ここでは指定となっている697点のうち、最も古い「足利直義感状」を紹介いたします。

下坂家は、坂田郡下坂中村(下坂中町)に居住した北近江の有力な村落領主(地侍・土豪)です。浅井長政にも仕えたことが知られていますが、その活動が南北朝時代まで遡ることが確認できるのが、この足利直義感状です。足利直義は室町幕府を開いた足利尊氏の弟で、南北朝の内乱では兄の右腕として開府に尽力しました。

「下坂家文書」に残った直義の感状は、建武3年(1336)7月25日に下坂治部左衛門尉に宛てたもので、近江国の「伊岐代宮(草津市片岡町付近)」に

おいて、下坂氏の親類新兵衛尉重宗が討ち死にしたことや、京都法勝寺の合戦において弟の三郎貞兼が傷を受けたことなどが記されています。下坂氏が多くの犠牲を払いながら、足利方として奮戦したことを謝し恩賞を与えることを述べたものです。

当時の足利軍は、鎌倉幕府を倒した後醍醐天皇と対立し、京都をめぐる戦っており、この一連の合戦も後醍醐天皇方の軍隊との戦いです。第2次世界大戦前に編纂された『近江坂田郡志』などでは、当時の皇国史観により、天皇軍と戦ったことを遠慮して掲載されないなど、正当な評価を与えられてきませんでした。この度、下坂氏館跡の公開を記念して主屋展示室において公開する予定です。



▲足利直義感状 下坂治部左衛門尉宛

岡 歴史遺産課 (☎65・6510)

国指定史跡「北近江城館跡群」の中心施設 「下坂氏館跡」が8月8日(土)オープンします

昨年11月に、所有者から市へ寄附された国指定史跡「下坂氏館跡」の一般公開が始まります。浅井長政家臣の屋敷が当時のまま残り、市が全国に誇る貴重な戦国時代の史跡です。

地域に残る歴史の重みを感じてみませんか。市民の皆さんのご来場をお待ちしています。



▲下坂氏館跡

戦国の「村落領主」の館が そのままに現存

下坂氏館は、南北朝から戦国時代まで続く「土豪」「地侍」と呼ばれる「村落領主村のリーダー」の屋敷跡です。戦国時代に造られた約90メートル四方の土塁(土でできた土手)と堀に囲まれた城郭遺構が残り、建物は江戸時代の建造ですが、戦国時代を偲ばせる主屋や門が残っています。さらに、戦国時代の村落領主の屋敷は、菩提寺と一体となっていたと考えられており、屋敷内には、下坂氏の菩提寺である浄土宗寺院「不断光院」が現存しています。



▲下坂氏館跡航空写真

これほど良好に戦国時代の屋敷構えが残っている遺構は、滋賀県内はもろろん、全国的に見ても例がありません。このことから、平成18年1月に国の「史跡」に指定されました。



▲不断光院(下坂氏の菩提寺)

下坂氏館跡(下坂中町)

■利用案内

一般公開開始 8月8日(土)13時30分

【開館日】土曜日、日曜日、祝日(冬季休館)

【開館時間】9時～16時(入館は15時30分まで)

【入館料】

大人 個人300円、団体250円

小中学生 (個人150円、団体130円)

※団体：20人以上

岡 六柱まちづくりセンター (☎62・0198)
長浜城歴史博物館 (☎63・4611)

●市政に関するご意見

●広報ながはまに関するご意見 (今後、特集を希望するテーマ)

年齢 歳 (男性 ・ 女性)

※担当課からの返事をご希望の場合は、氏名・ご住所・連絡先(電話・メールなど)をご記入ください。

たに折り